

# 平成22年度 坂城高等学校 学校評価報告書

学校運営方針： 地域と社会に貢献する人材の育成  
豊かな知性と情操を身につけ、地域・社会の有為な構成員となる健全な人格の育成を期する。

NO	重点目標	項目	評価項目	自己評価	評点	評点	学校関係者評価	改善策	
1	学習・進路	学ぶ楽しさを実感し、進路の希望を実現できる学校づくり	1-1	わかる授業の実践による基礎学力の定着	授業アンケートを実施し、授業改善に努めているが、教員相互の研修という点や授業の支援という点では改善できる部分がある。	3.2	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の充実が課題である。</li> <li>「3C」総合学習は定着してきており、さらなる充実を図ってほしい。</li> <li>授業に集中して取り組めるような態勢づくりと生徒の意欲の喚起をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力充実のための科目「コアスタディ」を導入する。</li> <li>地域との連携による「ものづくり」科目を導入する。</li> <li>新教育課程の編成において、基礎学力の定着や総合学習についてこれまでの取り組みを生かしつつ新たに検討を加えていく。</li> </ul>
			1-2	将来を見据えた教育課程の構築	2年の選択講座に地域と連携して行う「ものづくり」講座、1年に基礎的学力育成のための学校設定教科の導入を検討し、進めている。				
			1-3	特徴ある総合学習の構築	ひきつづき、3Cを軸とした生きる力をはぐむ総合学習の実現につとめている。				
			1-4	進路指導の充実	就職状況が厳しい中、就職活動支援事業を活用し粘り強く指導した結果、生徒の就職内定率90%を超えることができた。				
2	生徒指導	落ち着いた生活できる校風づくり	2-1	基本的な生活習慣の確立	制服のきちんとした着用の指導を係を中心にすすめた。今後は制服のあり方の検討と並行して指導を考えていきたい。	2.8	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導は生徒からは「厳しい」の声もあるが、全体として良い校風づくりに向かっていると思われるので現在の態勢を継続してほしい。</li> <li>対策をとる必要のあることには至急対策をたててほしい。</li> <li>制服については現在のものでもよいか検討を加えてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に集中して取り組めるような態勢づくりを教職員だけでなく生徒にも求めて、授業内容の充実をはかる。</li> <li>問題のあることがらへすばやく対応できるようにしていく。</li> <li>制服は生徒保護者の要望をふまえ、現在のものからの変更を検討する。</li> </ul>
			2-2	交通ルール・マナーの向上	高校生活に慣れない1年生では教室が落ち着かない面も見られ、支援が必要な場面もみられたが次第に落ち着きつつある。安心して学ぶことのできる				
			2-3	安心して学べる環境と集団作り	登下校のマナーについてHRでの呼びかけ、立ち番指導を行っているが、十分浸透していない面もあり、引き続き指導を行っていく。				
			2-4	個々の生徒に応じた指導態勢作り	相談室を中心に支援の体制は充実したが、支援の必要な生徒が増えていることもあり、職員個々の研修を深め全体で対応できるように図りたい。				
3	特別活動	生徒1人1人が自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり	3-1	HR・行事を通じた人間形成、集団作り	HRを単位として文化祭をはじめ各種行事へ取り組みを充実させた。HR担任への負担が大きいため支援体制の充実が必要である。	3.1	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は活発になるよう工夫をしてほしい。</li> <li>社会における相互援助を理解できるような取り組みにより集団生活への適応できる人づくりを期待する。</li> <li>生徒会を中心にした町の行事への参加は評価が高く継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブ員の大会参加を経済的に援助できるか検討する。</li> <li>生徒会の取り組みは高く評価されているので継続し充実をはかりたい。</li> </ul>
			3-2	生徒会活動を通じた人間形成、集団作り	学校創立100周年葛尾祭50周年の記念の年に当たり、文化祭をはじめ各行事とも充実した活動を行うことができた。				
			3-3	クラブ活動を通じた人間形成、集団作り	クラブ活動への意識調査を行った。1年生の加入率は3割台にとどまっており、来年度の新入生に向け対策を講じる必要がある。ハンドボール部が男女とも北信越大会に進んだのは明るいニュースである。				
4	連携	保護者・地域に信頼される学校づくり	4-1	PTA活動・同窓会の充実	100周年事業は丁寧に準備を重ね、成功裏に終えることができた。PTA活動への会員の参加については工夫を重ねる必要がある。	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元を中心に中学や地域への情報発信を更に充実させていってほしい。</li> <li>保護者との連携を深めるため、家庭への連絡方法を工夫してほしい。</li> <li>生徒会以外の一般生徒にも地域との交流をすすめてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連携を深められるように学年(学級)通信を発行し周知を行うこと、また連絡方法の工夫を図りたい。</li> <li>PTA活動は学年・学級単位の活動も活性化させたい。広報活動も工夫を加えたい。</li> <li>学校(生徒)と地域との交流がはかれる行事を検討する。</li> </ul>
			4-2	地域や教育機関との連携強化	地域との連携による学校設定教科の導入を進めている。埼玉工業大学との連携による生徒や教職員への講座の開講を行った。				
			4-3	授業公開の充実	年2回の公開授業を行っているが参加は低調である。				
			4-4	学校評価制度の利用	全職員による中学訪問を継続しており、体験入学への参加も増加している。「坂高プレス」によって学校の教育活動の一端を公開しているがP会員も含め周知は不十分であり、更に広める必要がある。				

評点は次のように四段階で実施したものの平均値

4 十分満足 3 やや満足 2 やや不足 1 不十分